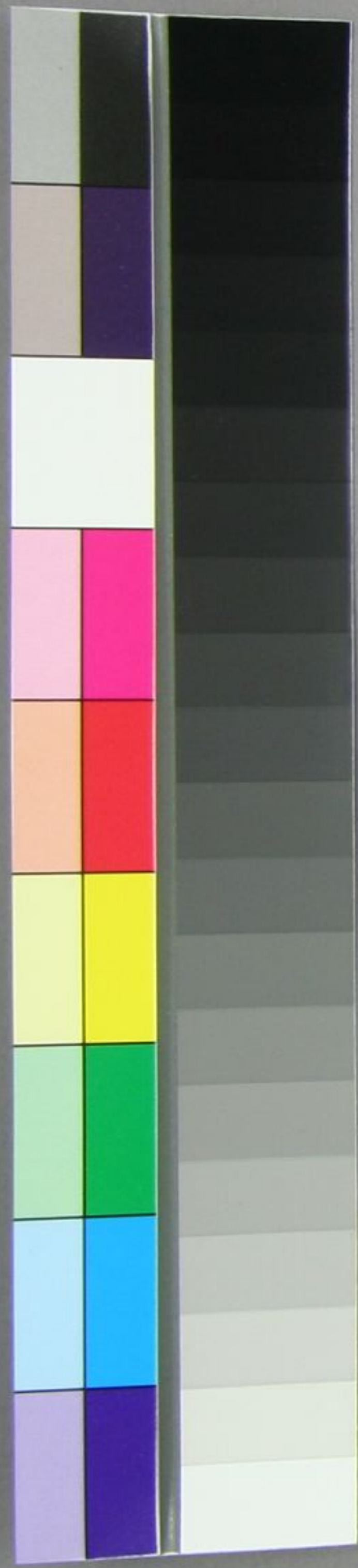


某曩ニ謹ニ衷情ヲ吐露シ大ニ之カ採擇ヲ試ミ
爾來日ニ其恩命ノ降ルヲ待ツコト既ニ數箇月
今ニ何等ノ命ニ接セス茲ニ再ヒ陳情ヲ重ネ敢
テ其採擇ヲ試ミントス

凡ソ吾人ノ此社會ニ處スルヤ言責ヲ一轍ニ蹈
ミ主義ヲ一型ニ守リ赤誠死スルモ尚偷ヘサル
ノ精神ヲ以テ事ニ當ルニアラスンハ焉ンソ能
ク始終ニ其目的ヲ貫收スルコトヲ得ヘケンヤ
況ンヤ躬ヲ政界ニ置キ常ニ國家ノ重キヲ其双
肩ニ荷フ者ニ於テヲヤ某不敏ト雖モ既ニ茲ニ



意ヲ決シテ躬ヲ政界ニ投シ既ニ二十有餘年ノ
間未々曾テ一回モ其言責ト主義トヲ偷ヘス以
テ今日ニ至ル特ニ深ク閣下ヲ信シ閣下カ野ニ
降りテヨリ茲ニ十有七年言責主義共ニ一貫以
テ閣下ニ隸從シ來レリ是レ赤誠國ニ酬ユル精
神ト及ヒ閣下ヲ信スル特ニ深キニアラスンハ
焉ンソ能ク今日ニ至ルヲ得ンヤ茲ヲ以テ時ニ
當リ折ニ觸レ國家ノ利害ト閣下ノ毀譽トニ係
ルモノハ常ニ其言責動作ヲ謹マサルハ十カリ
シ曩ニ閣下ノ松方内閣ニ入ラントスルヤ某其

機尚早シトシ僭越ノ罪ヲ甘シシ波心ヲ挾ミ密
ニ衷言ヲ試ミタリシ然レトモ惜哉其採擇スル
所トナラス遂ニ閣下ノ入閣ヲ視ル後第十議會
ノ開ケルヤ其政府カ曾テ某等カ攻撃シタル前
政府ノ膨脹豫算ヲ襲套シテ提出セシノミナラ
ズ貨幣法ナル重大問題ヲ提出シ之ヲ瞬時吐嗟
ノ間ニ議決スヘシト強ヒントスルニ當テヤ某
復々痛ク大ニ異議ヲ挾ミシモ其議遂ニ納レテ
レス某意ヲ決シテ脱黨セントスルニ當リテヤ
閣下曰ク汝ノ言フ所正ニ理且切ナリ余モ亦汝

ノ如キ感ナキニアラス然レトモ尚未々意ヲ決
シテ退ク秋ニアラス余此議會了リハ大ニ爲ス
所アリシヲ藏ス若シ其秋ニ至ルモ猶事成ラス
ンハ余モ亦大ニ決スル所アリントス汝暫ク其
機ヲ待テト茲ニ於テ乎某閣下ニ向テ一身ノ事
情ト境遇トヲ陳ヘ閣下モ亦機ヲ視テ某ノ爲メ
ニ盡ス所アルヘシト云ハレ遂ニ其ノ決意ヲ思
ヒ止リ以テ今日ニ至ル今ヤ閣下ハ捲土重來ノ
勢ヲ以テ我カ天地ヲ睥睨シ
陛下ノ内閣ニ立テ總理ノ椅子ヲ占ム是レ某等

カ年來ノ企望ヲ實行シテ我カ天地ヲ一新スル
ノ秋ナルノミナラス某等モ亦閣下ニ頼テ其ノ
企望ヲ達スルノ秋ナリサルヘカラス然ルニ閣
下カ現内閣ヲ組織セテレテヨリ以來既ニ將ニ
半歳ナリントスルニモ拘ラス我黨ノ言責一モ
行ハレズ特ニ某等カ前後殆ント二十餘年間閣
下ニ頼テ事ヲナサント企テタルモノ今ヤ全ク
水泡ニ属セントス茲ニ於テ乎某大ニ疑ヒナキ
能ハス今ヤ閣下ハ閣下カ從來唱ヒ來リシ言責
ヲ實行スルノ誠意ヲ欠キシヤ又曾テ某ノ爲メ

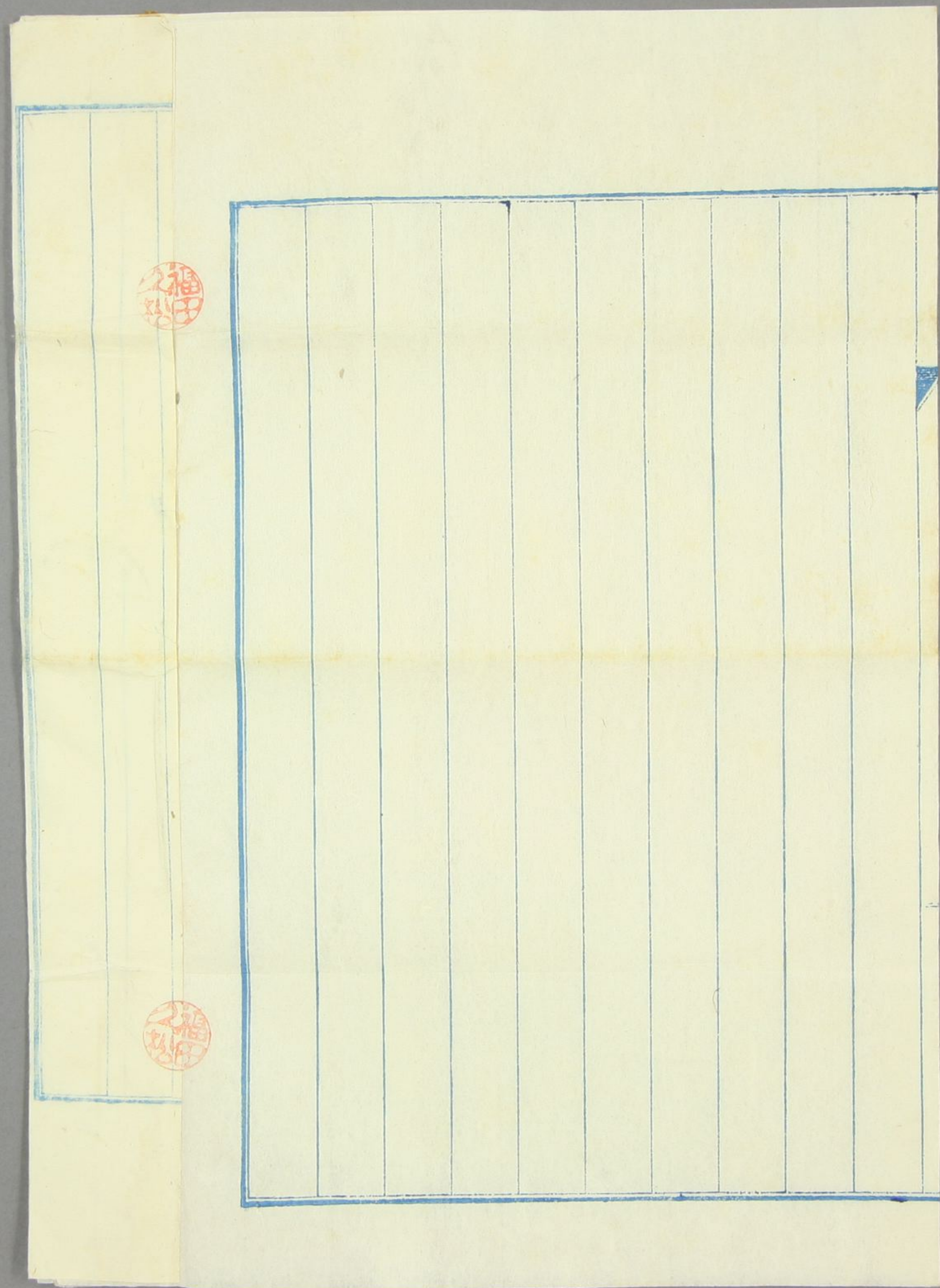
ニ盡ス所アルヘシト云ハレタルハ全ク當時世
辭一片ニ過キサリシカト然レトモ某尚深ク閣
下ヲ信ス閣下ハ徒ニ世辭ヲ以テ一世ヲ渡リ壯
語ヲ以テ社會ヲ籠絡シ得ルト思フカ如キ偽英
雄小政治家ニアラサルコトヲ只閣下カ今日ア
ルヲ致ス所以ノモノハ閣臣中閣下ノ意志ニ背
クモノアツテ其勇斷ヲ障ケラル、ニアルコト
ヲ然レトモ今ヤ將ニ其時機ヲ失シ天下ノ人心
悉ク皆離乖セントス故ニ閣下今ニシテ勇斷ヲ
以テ天下ノ人心ヲ醒覺スルノ策ナクンハ天下

十萬ノ政友ヲ死地ニ陷レ藩閥ノ餘燼ヲシテ蘇
復セシメ遂ニ我黨ノ名聲ヲシテ其始終ヲ一貫
スル能ハサラシメントス豈痛嘆長大息ノ至リ
ナラスヤ是レ某ノ衷情難默止茲ニ僭越ノ罪ヲ
犯シ敢テ一書ヲ呈スル所以ナリ仰キ願クハ閣
下某ノ微衷ヲ察セラレ之ヲ採擇セラレンコト
ヲ昧死謹言

明治三十一年九月十九日

福田久松

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿



麴町區永田町

內閣總理大臣伯爵大隈重信殿

至急必親展





明治三十年九月十九日

福田久松

日本橋區北新堀町三番地